

SHIN CLUB 257

(株)辰 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「長者丸 VIEW TERRACE」 撮影：上田宏

今月のトーク/monthly talk

街に開かれる人の営み

写真は、2017年に竣工した「長者丸 VIEW TERRACE」です。2020年度グッドデザイン賞を受賞し、竣工から時間が経過しましたが、この度ご紹介する機会をいただきました。

設計は八尾廣氏と遠藤克彦氏。お二人は2016年度グッドデザイン賞受賞の「15WINDOWS—池田山の集合住宅」（他社施工）でもチームを組まれました。建築家・原広司氏の事務所「アトリエ・ファイ」で学ばれた仲とのこと。

八尾：池田山の建て主は大学ポート部の先輩です。集合住宅用の土地が見つかり、設計が始まったのですが、その時はすでに大学に勤めていましたので、ちょうど敷地の近所に事務所を構えていた遠藤さんに声をかけました。

遠藤：池田山は大きな邸宅が並ぶ高級住宅地。セキュリティ意識が高い層は閉鎖的な建物を好まれることが多いのですが、むしろ入居者の生活が街の中に染み出るようなオープンなものを考えようということになりました。

八尾：シンプルな構成で、RC造の外断熱、チャコールグレーの落ち着いた佇まい、ステンレスで粹取られた15の窓から入居者の生活が滲み出すようなファサードデザインが評価され、グッドデザイン賞を受賞しました。「長者丸」の建て主が池田山をご覧になり、同様の構成集合住宅を建てたいということで依頼されました。

遠藤：長者丸も都心なのに静かで、少し高台になっていて風も通る。そんな景色のいい環境を活かしながら、かなり大きな賃貸住戸を4戸、上層階に建て主の自邸も入れて天井高も確保しなくてはな

らないという条件でスタートしました。

八尾：日本のモダン住宅の先駆けである「土浦亀城邸」が、敷地の近隣にあるんです。

遠藤：周辺のほとんどの家のように、塀で囲ってしまうと街並みが閉じてしまう。せつかくいい場所なのに、周りを楽しめないのはつまらないでしょう。

八尾：傾斜地である敷地の特性から、結果的に土浦亀城邸と同様のスキップフロア構成をとり、開放的でありながら、セキュリティに配慮した住宅が完成し、入居者もすぐ決まりました。池田山の住宅では、入居者の方たちが窓辺にいろんなものを置いたりして、外部の視線を自らコントロールして生活を楽しんでおられます。「長者丸」でも同様に個性的な暮らしを楽しんでもらえたらと思っています。遠藤：グッドデザイン賞の受賞理由として、地域へ閉じすぎない住まい方で、新しいタイポロジーを提案したという点が評価されました。私は、集合住宅は逆スラブを採用するのが良いと思っています。室内の配管を下階に持ち込まないのが集合住宅の基本。そのためこの高さ制限の中、できるだけ薄い床にして、2.5mの天井高を確保することが苦労したところです。

八尾：その点では構造の佐藤淳さんの力も大きいですね。

遠藤：構造ダイアグラムを見ていただきたい。スラブは縦横にワッフルスラブにし、場所によって鉄筋の密度が違うので施工は大変だったと思います。

(p2に建築概要を、p3にインタビューの続きを掲載しました)

長者丸VIEW TERRACE



夜景全景

RC造のコアと外周の鉄柱構造が開放的な住戸プランを実現

東京都心部の閑静な住宅地に計画された集合住宅である。ドライエリアを備えた1階に2住戸、駐車スペースにより半階ずれた形で2階に2住戸、最上部の3、4階に、下階の半階ずれた構成を利用しスキップフロア構成の1住戸の合計5住戸を計画した。

敷地条件上、前面道路から奥側の2住戸を、大きなドライエリアを設けながら地盤面より1.4m下げることにより、敷地に対する最大の住戸面積を確保している。周辺の環境は良好で、周囲に対しての距離も取れる敷地であったことから、自由な間取りで周囲に対して開く住戸構成が導かれた。共用部分の階段とEVを擁するコアを中心として各辺から四方に構造壁のラインを各1本ずつ定め、敷地境界と平行な構造壁を一切設けない構成としたことにより、全体としてスラブが強調されるデザインとなった。スラブは所要所で住戸周りのテラスとなり、開放的な住戸の内外の関係を豊かにしている。



3-4階リビングより西側のダイニング方向を臨む

構造的には上記のコアと各辺に対する構造壁ラインは各階で揃えているが、その他の構造壁は上下階で必ずしも一致していない構成となっている。逆梁の細かな小梁を縦横に配した厚み350mm（仕上を含め400mm）のツッフルスラブにより構造壁同士の力を伝え、基礎へ導いている。外周部の直径100φの細い鉄骨柱はスラブ端部の長期たわみを抑える役割のみ果たしており、住戸内外のつながりを阻害しない。各住戸内部のデザインは全て異なる素材や色を選択し、場所に応じて外部との関係等を考慮しつつ異なる雰囲気でもとめた。スラブ端部はセラート割りを見せない型枠にて平滑なコンクリート打ち放しとし、住戸の天井となるスラブ底面の一部には杉板型枠による打ち放し仕上げとし、室内の木質を基調とした素材感との統一感を持たせた。住戸外周には半透明のカーテンと遮光カーテンを巡らすことができ、住居内外の関係を住民自らが自由に場所ごとに設定できるよう工夫している。

(八尾廣 / 八尾廣研究室)



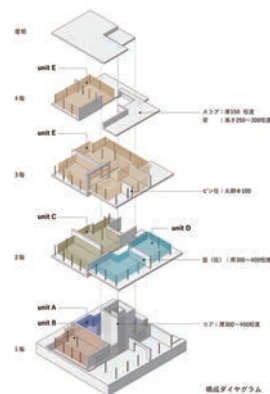
1階 賃貸住戸バスルーム



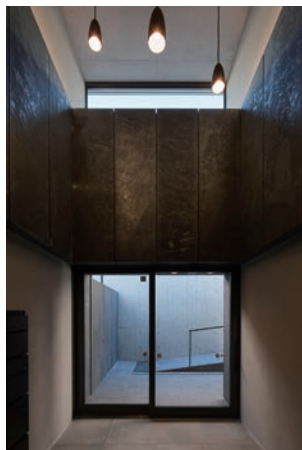
外周部の鉄骨柱はたわみを抑えるのみ



3-4階の吹き抜け



構成ダイアグラム：各住戸は建物中心部のRC造のコアと戸境壁で耐震要素を担う遠藤克彦建築研究所提供



1階エントランス



1階賃貸住戸ダイニングキッチン

土浦亀城邸を想起させる3-4階スキップフロアの階段



所在地：品川区
 構造：RC造
 規模：地上4階
 用途：共同住宅
 意匠設計：
 遠藤克彦 / 遠藤克彦建築研究所
 八尾廣 / 東京工芸大学工学部建築学科
 八尾廣研究室
 監理：小林佐絵子 / アトリエコ
 構造設計：佐藤淳 / 佐藤淳構造設計事務所
 設備設計：山下直久 / Comodo設備計画、
 タクトコンフォート
 カーテン：山本 紀代彦 / ファブリックス
 ケーブ
 施工担当：奥村・八幡・大平
 竣工：2017年10月
 撮影：上田宏
 (夜景全景のみ八尾廣研究室)

「設計マネジメントと施工」

八尾廣／八尾廣研究室 & 遠藤克彦／遠藤克彦建築研究所



Hiroshi Yatsuo

(p1 から続く) 今月は、「長者丸 VIEWTERRACE」のお二人の設計者にお話を伺います。

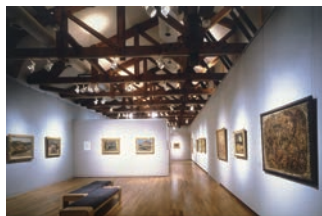
—八尾様のこれまでのお仕事についてお聞かせください。

八尾：東京大学大学院で原広司先生に学び、修士修了後、先生のアトリエ・ファイ建築研究所に入所しました。その時すでに梅田スカイビルの現場と京都駅ビルの実施設計が進んでいました。当時所員は20名近くいました。それに加え、JRからの出向社員やCAD作図部隊、遠藤さんをはじめとする大学院生もいて、代官山の事務所は大変活気に満ちていました。

当時の設計図はまだほとんど手描きで、京都駅の実施設計はA1サイズ840枚にもものぼる設計図書先輩方全員で描いていました。事務所には長さ5mの京都駅の100分の1の模型が対角線上に置かれ、部屋が二分されるほどでした。

私たち新人は、京都駅も手伝いましたが、その後住宅をはじめ、宮城県の図書館、広島県立基町高校といった公共の仕事やスペインのパレアルス諸島に新しくできる先端学園都市のコンペなどを次々に担当しました。事務所にも寝泊まりして一生懸命働きましたが、原先生からは建築に関することばかりでなく、建築家として生きるということの全てを学びました。

その後、岸田省吾先生に声がけいただき、そこで働く一方で、独立したいという思いもふつふつと湧いてきた時代だったので、勤めながら自分でもコンペに応募していました。そんな中、友人の角倉剛と大野高志とともに応募した小松市の宮本美術館の1次審査通過の3社に選ばれました。2次審査では大手設計事務所2社と戦うこととなり、またとないチャンスに気合を入れて取り組みました。その甲斐あって最優秀に選ばれ、独立することができました。宮本美術館を完成させたのち、3人で4年間事務所続け、その後方向性の違いが見えてきたのでそれぞれ独立しました。その後、自分も原先生のように研究と制作を並行しながら建築を探究したいという想いが強くなり、2008年より東京工芸大学で教育・研究にも軸足を置くようになりました。



小松市立宮本三郎美術館 (2000)

—遠藤さんは、どんな形でお仕事を進められてきたのですか。

八尾 廣 (やつお ひろし)

1966年 大阪市生まれ
1990年 東京大学工学部建築学科卒業
1992年 東京大学工学系研究科建築学専攻修士課程修了
アトリエ・ファイ建築研究所入所
1997年 岸田建築設計事務所入所
1999年 小松市立宮本三郎美術館 建設提案競技 最優秀賞
THT アーキテツツ 設立
2003年 非常勤講師／東京電機大学、明治大学、東京工芸大学
2005年 八尾廣建築計画事務所設立
2008年 東京工芸大学工学部建築学科准教授
2017年 NPO法人GER 設立・副理事長
2018年～東京工芸大学工学部建築学科教授



Katsuhiko Endo

遠藤：僕はよその事務所に就職したことないんです。修士から博士に進んでも、ほとんどアトリエ・ファイの事務所において、博士2年の時、「東京大学生産技術研究所」の基本計画にアルバイトとして携わり、「柏キャンパス」の図面を描いていた頃に卒業を迎えました。今は亡き小嶋一浩さんに、独立の相談に行きましたところ、「今」だと。そこで1年間博士のまま27歳のときに独立しました。

が、なかなか仕事来ません。退路を絶って学校はやめ30歳くらいまで食えなくて、コンペに計画を出し続けました。あるとき軽井沢の別荘が『新建築住宅特集』で表紙になって、それから注文が増え、少し良くなりましたね。

しかし「別荘」という建物は、ある意味で非常にコンサバティブな建築。社会に接続しないことを「良し」として求められることもあり、だんだん影響力を失っていく気がして、模索することもあった。一方でスケールを超えて成立する、強度のあるものを作っていくしかない。去年までで数えると95件くらいコンペに応募しました。2016年、「長者丸」の建設中に「大阪中之島美術館」のプロポーザルが通過し、今に至ります。

特殊な構造で施工の難易度は高い。「長者丸」も同じ佐藤淳氏の構造設計で難易度が高い工事でした。ハウガンという解析システム、これが優秀なのですが、指定検査機関が判断できない。世界の潮流で言えば、設計から施工までのBIMを含めたマネジメントが主流になりつつある今、こうすれば作れるという設計に、施工が応えられないのは問題です。ザハ・ハジドの施工で有名な「ゲャーリー・テクノロジー」は、世界中の3次曲面の施工を請け負っている。でも日本にはまだそういう施工会社はまだない。僕は施工業界のチャンスだと思います。

八尾：うちもCAD教育にはかなり力を入れていますが、最近はずっと3Dでモデリングしてから考える学生も出てきています。遠藤：我々と施工者さんとはこういう風になればできる、という共通認識ができていますが、そういう常識を飛び越える新しいことが出てくるときに常識が邪魔になることがある。僕は最近すぐそう思うんです。特に、素材の可能性が広がらない。施工図の確認も3Dでやるべき。設計と施工はシームレスになるべきです。一本日はありがとうございました。



大阪中之島美術館外観
遠藤克彦建築研究所提供(2022年2月2日開館)

遠藤 克彦 (えんどう かつひこ)

1970年 横浜市生まれ
1992年 武蔵工業大学(現 東京都市大学)工学部建築学科卒業
1995年 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻修士課程修了
(東京大学生産技術研究所 原広司研究室在籍) 同大学院博士課程進学
1997年 遠藤建築研究所設立
2007年 株式会社 遠藤克彦建築研究所に組織改編
2017年 大阪オフィス開設
2021年～茨城大学 大学院理工学研究科 都市システム工学専攻 准教授

「看板シート」と「手ぬぐい」の新たなデザインを広く募集いたします

このたび、「辰」の施工現場の看板シートと手ぬぐいのデザインを一新することになりました。これまで、野老朝雄氏や永山裕子氏にデザインいただいておりますが、オリンピックを機に新たなイメージのものを一般公募することにいたしました。奮ってご応募ください。

<募集要項及びデザインの注意点>

■手ぬぐい

- ・サイズ・形式・・・縦 350 mm × 横 900 mm PDF 形式でご提出下さい。
(縦・横問いません)
- ・色は 1 色でお願いします。
- ・2 mm 以下の線は色が浸食し線が消えてしまうため、線幅は 2 mm 以上をお願いします。
- ・生地の上に近い柄は切れてしまう恐れがあるので、柄のデザインは、生地の上から 2 cm 以内におさめてください。裁ち落としの場合は外側に 2 cm 以上の塗り足しを設けてください。

■看板シート

- ・サイズ・形式・・・縦 5400 mm × 横 1800 mm PDF 形式でご提出下さい。
(縦使いとします)
- ・色数指定はありませんが、遠くから見ても分かりやすいデザインをお願いします。

【色指定について】

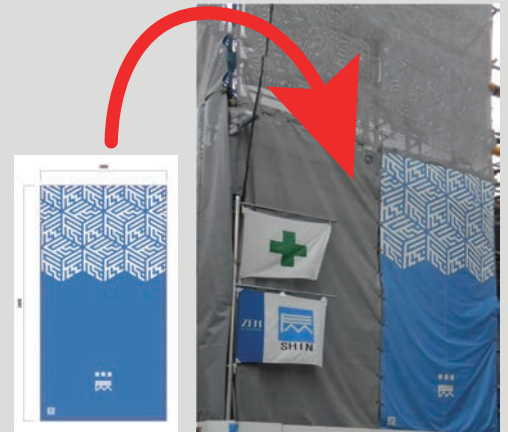
- ・「DIC (ディック)」や「PANTONE (パントン)」と呼ばれるカラーチップでの色指定をお願いします。お持ちでない場合はお手持ちの紙片やカラーチャート等を提出してください。
- *パソコン画面上の指定だけではイメージと異なる仕上がりになる場合があります。
- *「金色」「銀色」「蛍光色」「夜光塗料」はご指定いただけません。

【その他】

- ・応募・問い合わせ先：営業部 shinfo@esna.co.jp にメールでご連絡下さい。
- ・ご応募は、未発表のデザインに限ります。



2021年の手ぬぐい（デザイン：野老朝雄氏）
お年賀などのご挨拶にお客様にお渡しします



現在の看板シート（デザイン：野老朝雄氏）
採用されたデザインは新築現場で使用されます

「情熱をもって挑戦し、進化を目指す」
株式会社辰の
新しい顔となるようなアイデアを
ぜひお寄せください。
ご応募、お待ちしております。

応募締切：2021年9月20日必着

設計
事務所様
限定

2021年8月よりスタート!

レンタルスペース 始めました!

このたび株式会社辰の7階にて、設計事務所様を対象にレンタルスペース(無料)のサービスを始めました。お打合せや作業など使い方は自由です。どうぞご利用ください。

■ご利用時間・ご利用条件

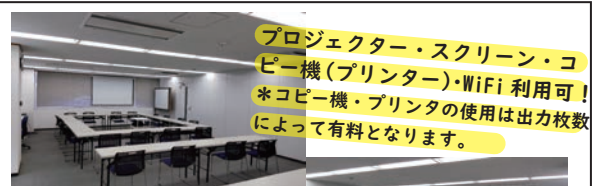
- ・弊社営業日時間内：9:00am ~ 17:00pm
- ・利用時間：最低1時間以上、30分単位
- ・利用日数：最大3日間まで
- ・人数：最大6名まで
- ・飲食可（ゴミはお持ち帰りをお願いします）

■ご予約・お問合せ先

- ①株式会社辰 総務部
TEL 03-3486-1570
FAX 03-3486-1450
- ②当社の社員へ直接申込み

■アクセス

住所：東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル
明治通りを恵比寿方面に進んで城南信用金庫を左に曲がると入口があります。
5階にて受付をお願いします。



プロジェクター・スクリーン・コピー機(プリンター)・WiFi 利用可!
*コピー機・プリンタの使用は出力枚数によって有料となります。

約70㎡の広々スペース!
テーブルの配置はご自由!
(お帰りの際は原状復旧をお願いします)



編集後記

暑中お見舞のデザインを一新いたしました。近年ではご挨拶で使用する八ガキの需要が減ってきているようですが、良き風習として後世へ受け継いでいきたいですね。

(株)辰 通信 Vol.257 発行日 2021年8月10日
編集人：松村典子/村上由衣/本間夏来 発行人：岩本健寿
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル 5F TEL:03-3486-1570
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。
バックナンバーもPDFで掲載しています。
スマホはこちらから
→

